

- H22に一般企業が加工事業(カット野菜)と併せて農業参入したことをきっかけに、H23から「にんじん、キャベツ、だいこん、かぼちゃ、たまねぎ」で試験栽培をした結果、販売先・収益性・価格・出荷体制等課題が多く、最終的に大量に出荷できる「キャベツ、だいこん」に絞る。
- H26から機械化一貫体系で栽培できる加工・業務用たまねぎを再度試験栽培することになり、3品目に特化して取組んでいる。
- リスクヘッジのため、H27に加工・業務用野菜部会（JA花咲ふくい「あぶら菜会」）を立ち上げた。部会には契約栽培という理解のもとで参画し、一般企業も参入している。生産者同士で運営し、販売数量に応じた生産及び出荷計画の立案を行っている。
- 加工・業務用野菜の需要が高まってきたことにより、販売の一元化等の販売戦略を立てなければならない。

加工用キャベツ

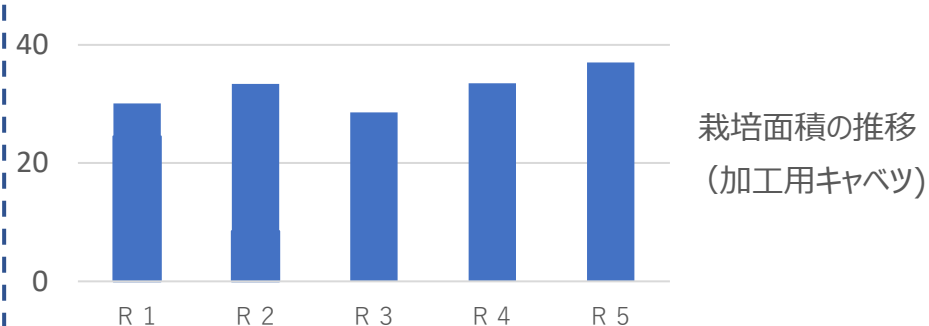
- 端境期のリスクを考慮しながら、年間社員を雇用している一般企業との連携で栽培技術を確立し、通年出荷体制を構築することができた。
- 出荷時期は10月中旬～7月上旬。
- 年間出荷数量（R5年度）：984 t
- 栽培面積（R5年度）：37 ha
- 秋冬期の気候も考慮し、鉄コンテナで集荷している。収穫したキャベツは簡易予冷庫で保存し、予冷と加湿を行っている。
- 販売価格は再生産価格を確保しており、コスト軽減及び単収アップを目指している。



圃場



簡易予冷庫



加工・業務用野菜生産基盤強化推進事業(H27～R2)及び強い農業づくり交付金(H29)により生産量及び面積が増加し、安定出荷できている。

加工用たまねぎ・だいこん

- 年間出荷数量（R5年度）
たまねぎ：576.4 t だいこん：312.2 t
- 栽培面積（R5年度）
たまねぎ：17.9 ha だいこん：7.7 ha
- どちらも鉄コンテナで集荷している。